



2025年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月12日

上場会社名 株式会社アイスタイル 上場取引所 東
 コード番号 3660 URL <https://www.istyle.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役会長CEO（氏名） 吉松 徹郎
 問合せ先責任者（役職名） 取締役副会長CFO（氏名） 菅原 敬（TEL）03(6161)3660
 半期報告書提出予定日 2025年2月12日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満四捨五入）

1. 2025年6月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年7月1日～2024年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期中間期	33,072	22.0	1,495	75.8	1,588	96.4	1,100	128.5
2024年6月期中間期	27,117	33.2	851	235.5	808	—	482	—

（注）包括利益 2025年6月期中間期 929百万円（90.3%） 2024年6月期中間期 488百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益		潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益	
	円	銭	円	銭
2025年6月期中間期	13	97	9	39
2024年6月期中間期	6	27	4	17

（2）連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期中間期	32,481	—	13,293	—	36.6	—
2024年6月期	28,141	—	12,187	—	39.0	—

（参考）自己資本 2025年6月期中間期 11,904百万円 2024年6月期 10,979百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2024年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2025年6月期	—	0.00	—	—	—	—
2025年6月期（予想）	—	—	—	1.00	1.00	1.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2025年6月期の連結業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	66,000	17.7	2,800	44.3	2,900	68.5	1,900	56.5	24	07

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年6月期中間期	81,463,593株	2024年6月期	81,463,593株
2025年6月期中間期	2,693,618株	2024年6月期	2,693,567株
2025年6月期中間期	78,769,979株	2024年6月期中間期	76,870,026株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。なお、連結業績予想の1株当たり当期純利益は2025年1月末までの新株予約権の行使による影響を加味して計算しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループは、2024年8月に発表しました中期事業方針に基づき、リテール事業(EC・店舗)の拡大を通じてユーザーとの接点やデータを増やし、それらをマーケティング支援事業(BtoBサービス)でマネタイズすることで、中期事業目標である連結売上高1,000億円、連結営業利益80億円の達成を目指しております。

今期2025年6月期は中期事業方針の初年度として、マーケティング支援事業におけるソリューションの拡充やデータドリブンソリューション等の新サービス開発、リテール事業での更なる店舗網の拡大とプラットフォーム連携によるEC成長、さらに、グローバル事業の黒字化を計画しています。

当中間連結会計期間における業績は以下の通りです。

売上高におきましては、国内で展開しているマーケティング支援事業及びリテール事業が業績を牽引し、前年同期比で22.0%の増収となりました。特に、リテール事業のEC・店舗がともに成長したことで、前年同期比28.1%の増収を記録しました。

営業利益におきましては、売上高と同様にマーケティング支援事業及びリテール事業が増益に貢献し、組織体制強化に伴う費用増を吸収して75.8%の増益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	33,072百万円	(前年同期 27,117百万円 / 前年同期比 22.0%増)
営業利益	1,495百万円	(前年同期 851百万円 / 前年同期比 75.8%増)
経常利益	1,588百万円	(前年同期 808百万円 / 前年同期比 96.4%増)
税金等調整前中間純利益	1,584百万円	(前年同期 799百万円 / 前年同期比 98.4%増)
親会社株主に帰属する中間純利益	1,100百万円	(前年同期 482百万円 / 前年同期比 128.5%増)

① マーケティング支援事業

当セグメントには、当社が運営するコスメ・美容の総合サイト「@cosme(アットコスメ)」を基盤とした、化粧品ブランド向けの広告ソリューションやMarketing SaaS(ブランドオフィシャル)が属しております。

売上高におきましては、大手化粧品ブランドだけでなく中堅・新興ブランドとの取引拡大により、前年同期比11.3%の増収となりました。

営業利益におきましては、リテール事業からの@cosme商標に関するライセンス料による利益計上(セグメント間取引)に加えて、限界利益率の高い事業モデルであるため増収寄与が効率的に利益拡大につながり、50.0%の増益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	4,691百万円	(前年同期 4,215百万円 / 前年同期比 11.3%増)
営業利益	1,423百万円	(前年同期 948百万円 / 前年同期比 50.0%増)

② リテール事業

当セグメントには、化粧品ECサイト「@cosme SHOPPING(アットコスメショッピング)」、化粧品専門店「@cosme STORE(アットコスメストア)」等の国内における小売業を中心としたサービスが属しております。

売上高におきまして、ECでは、引き続きプラットフォーム連携による新規顧客の獲得や、12月の販売イベント「@cosme BEAUTY DAY」の成功により、前年同期比28.0%の増収となりました。店舗では、新規出店や既存店改装による延床面積の拡大に伴い、ネットとリアルを融合した体験が生活者にさらに浸透したことで、28.2%の増収となりました。結果として、セグメント全体では28.1%の増収にて着地しました。

営業利益におきましては、マーケティング支援事業に対するライセンス料の支払い(セグメント間取引)や、前述のイベントに伴うプロモーション費用の計上があったものの、増収寄与が費用増を吸収し26.3%の増益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	25,533百万円	(前年同期 19,928百万円 / 前年同期比 28.1%増)
営業利益	1,304百万円	(前年同期 1,032百万円 / 前年同期比 26.3%増)

③ グローバル事業

当セグメントには、日本国外で展開するEC・卸売、店舗、メディア等のサービスが属しております。

売上高におきましては、依然厳しい市場環境を鑑み中国越境ECの販売戦略を見直した結果、セグメント全体で前年同期比2.5%の減収となりました。一方で、今期戦略に基づき利益率の高いBtoBサービスに注力したことにより、韓国事業における日本進出支援等が成長しました。

営業利益におきましては、利益率の高いBtoBサービスの増収によって韓国事業が黒字化し、前年同期比で赤字幅を縮小しての着地となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	2,056百万円(前年同期 2,108百万円 / 前年同期比 2.5%減)
営業損失(△)	△23百万円(前年同期 △76百万円)

④ その他事業

当セグメントには、美容部員を派遣する人材派遣事業と、ユーザー向けのBtoC課金サービス、創業間もない企業も含め幅広い成長ステージの企業に投資する投資育成事業が属しております。

売上高におきましては、人材派遣事業における一部サービスの終了を受け、前年同期比8.4%の減収となりました。

営業利益におきましては、減収した一方で人材派遣事業において収益性改善が進んだ結果、24.0%の増益となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は以下の通りとなりました。

売上高	792百万円(前年同期 865百万円 / 前年同期比 8.4%減)
営業利益	127百万円(前年同期 102百万円 / 前年同期比 24.0%増)

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産の部

当中間連結会計期間末における資産の額は、前連結会計年度末に比べ4,341百万円増加し、32,481百万円となりました。

当中間連結会計期間末における流動資産の額は、前連結会計年度末に比べ4,043百万円増加し、20,527百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,136百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が1,370百万円、商品が1,579百万円増加したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末における固定資産の額は、前連結会計年度末に比べ298百万円増加し、11,954百万円となりました。これは主に、のれんが183百万円減少したものの、有形固定資産が294百万円増加したこと等によるものであります。

② 負債の部

当中間連結会計期間末における負債の額は、前連結会計年度末に比べ3,235百万円増加し、19,188百万円となりました。

当中間連結会計期間末における流動負債の額は、前連結会計年度末に比べ6,363百万円増加し、14,600百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が1,098百万円、短期借入金が250百万円、1年内返済予定の長期借入金が440百万円、1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債が4,000百万円増加したこと等によるものであります。

当中間連結会計期間末における固定負債の額は、前連結会計年度末に比べ3,128百万円減少し、4,588百万円となりました。これは主に、長期借入金が1,271百万円増加したものの、転換社債型新株予約権付社債が4,000百万円減少したこと等によるものであります。

③ 純資産の部

当中間連結会計期間末における純資産の額は、前連結会計年度末に比べ1,106百万円増加し、13,293百万円となりました。これは主に、資本剰余金が2,809百万円減少したものの、利益剰余金が3,911百万円、新株予約権が234百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

直近の業績動向を鑑み、2024年8月14日に公表しました2025年6月期の通期連結業績予想を上方修正いたしました。修正の理由は以下のとおりです。

売上高におきましては、マーケティング支援事業において大手化粧品ブランドだけでなく中堅・新興ブランドとの取引高が計画よりも拡大いたしました。また、リテール事業におきましても、新規出店や既存店改装による延床面積の拡大に伴い、ネットとリアルを融合した体験が想定以上に生活者へ浸透したことや、ECにおいて12月の販売イベント「@cosme BEAUTY DAY」が計画以上の着地となったこともあり、通期連結業績に対する前回予想を上回る見込みであります。

利益におきましても、前述のとおりマーケティング支援事業やリテール事業の増収が各段階利益の増益に貢献したことを受け、同じく前回予想を上回る見通しです。

以上の状況を踏まえ、通期業績予想を下記のとおり上方修正いたしました。

<修正後の2025年6月期通期連結業績予想>

売上高	66,000百万円	(前回予想からの増減率	3.1%増)
営業利益	2,800百万円	(前回予想からの増減率	16.7%増)
経常利益	2,900百万円	(前回予想からの増減率	20.8%増)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,900百万円	(前回予想からの増減率	18.8%増)

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,762	6,898
受取手形、売掛金及び契約資産	4,646	6,015
商品	4,217	5,795
営業投資有価証券	1,070	1,054
その他	796	771
貸倒引当金	△6	△6
流動資産合計	16,484	20,527
固定資産		
有形固定資産	1,762	2,056
無形固定資産		
のれん	1,223	1,040
ソフトウェア	1,697	1,792
その他	652	750
無形固定資産合計	3,572	3,582
投資その他の資産		
投資有価証券	3,557	3,521
敷金及び保証金	1,814	1,863
その他	982	963
貸倒引当金	△31	△31
投資その他の資産合計	6,322	6,316
固定資産合計	11,656	11,954
資産合計	28,141	32,481

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,711	3,809
短期借入金	450	700
1年内返済予定の長期借入金	758	1,198
1年内償還予定の転換社債型新株予約権付社債	—	4,000
未払法人税等	326	456
賞与引当金	424	442
その他	3,568	3,996
流動負債合計	8,237	14,600
固定負債		
長期借入金	3,185	4,456
転換社債型新株予約権付社債	4,000	—
その他	531	132
固定負債合計	7,717	4,588
負債合計	15,953	19,188
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,719	5,719
資本剰余金	3,662	853
利益剰余金	507	4,418
自己株式	△280	△280
株主資本合計	9,607	10,710
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	87	16
為替換算調整勘定	1,284	1,177
その他の包括利益累計額合計	1,371	1,194
新株予約権	1,011	1,244
非支配株主持分	198	145
純資産合計	12,187	13,293
負債純資産合計	28,141	32,481

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
売上高	27,117	33,072
売上原価	15,275	18,759
売上総利益	11,842	14,312
販売費及び一般管理費	10,991	12,817
営業利益	851	1,495
営業外収益		
受取利息	5	3
受取配当金	3	3
助成金収入	4	0
為替差益	15	12
持分法による投資利益	32	70
投資事業組合運用益	—	3
その他	14	30
営業外収益合計	72	122
営業外費用		
支払利息	25	27
投資事業組合運用損	3	1
遊休資産諸費用	84	—
支払手数料	1	—
その他	3	1
営業外費用合計	115	30
経常利益	808	1,588
特別利益		
固定資産売却益	6	—
新株予約権戻入益	0	0
投資有価証券売却益	0	—
負ののれん発生益	0	—
特別利益合計	6	0
特別損失		
事業構造改善引当金繰入額	15	—
その他	1	3
特別損失合計	16	3
税金等調整前中間純利益	799	1,584
法人税等	292	475
中間純利益	506	1,109
非支配株主に帰属する中間純利益	25	9
親会社株主に帰属する中間純利益	482	1,100

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
中間純利益	506	1,109
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	△42
持分法適用会社に対する持分相当額	18	△29
為替換算調整勘定	△29	△110
その他の包括利益合計	△18	△181
中間包括利益	488	929
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	464	923
非支配株主に係る中間包括利益	24	6

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前中間連結会計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

当社は、2023年8月付で、連結子会社Glowdayz, Inc. の株式を追加取得いたしました。この結果、当中間連結会計期間において、資本剰余金が1,148百万円減少し、当中間連結会計期間末において資本剰余金が3,410百万円となっております。

当中間連結会計期間(自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)

当社は、2024年8月20日開催の取締役会の決議により、同日付で会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を2,811百万円減少させ、同額をその他資本剰余金に振り替えております。また、同日付で会社法第452条の規定に基づき、その他資本剰余金を2,811百万円減少させ、同額を繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損填補を行っております。

この欠損填補等により、当中間連結会計期間末において資本剰余金が853百万円、利益剰余金が4,418百万円となっております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前中間連結会計期間及び前連結会計年度については遡及適用後の中間連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前中間連結会計期間の中間連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報)

前中間連結会計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				その他 事業 (注) 1 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注) 2 (百万円)	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3 (百万円)
	マーケテ ィング支 援事業 (百万円)	リテール 事業 (百万円)	グローバル 事業 (百万円)	計				
売上高								
一時点で移転される財 又はサービス	—	19,928	1,699	21,627	—	21,627	—	21,627
一定の期間にわたり 移転される財又はサー ビス	4,215	—	409	4,625	865	5,489	—	5,489
顧客との契約から生じる 収益	4,215	19,928	2,108	26,252	865	27,116	—	27,116
その他の収益	—	—	—	—	0	0	—	0
外部顧客への売上高	4,215	19,928	2,108	26,252	865	27,117	—	27,117
セグメント間の内部 売上高又は振替高	441	43	0	484	17	501	△501	—
計	4,657	19,971	2,109	26,736	882	27,618	△501	27,117
セグメント利益又は損失 (△)	948	1,032	△76	1,904	102	2,007	△1,156	851

(注) 1. 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業、BtoC課金サービス等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,156百万円は、セグメント間取引消去3百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,159百万円であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント				その他 事業 (注) 1 (百万円)	合計 (百万円)	調整額 (注) 2 (百万円)	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3 (百万円)
	マーケ ティング支 援事業 (百万円)	リテール 事業 (百万円)	グローバル 事業 (百万円)	計				
売上高								
一時点で移転される財 又はサービス	—	25,533	1,616	27,149	—	27,149	—	27,149
一定の期間にわたり 移転される財又はサー ビス	4,691	—	440	5,130	792	5,923	—	5,923
顧客との契約から生じる 収益	4,691	25,533	2,056	32,279	792	33,072	—	33,072
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	4,691	25,533	2,056	32,279	792	33,072	—	33,072
セグメント間の内部 売上高又は振替高	820	56	—	876	20	896	△896	—
計	5,511	25,589	2,056	33,155	812	33,967	△896	33,072
セグメント利益又は損失 (△)	1,423	1,304	△23	2,703	127	2,829	△1,334	1,495

- (注) 1. 「その他事業」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、人材派遣事業、BtoC課金サービス等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△1,334百万円は、セグメント間取引消去0百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,334百万円であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。